

Press Release



令和6年11月20日

政 策 部

佐志小学校×JAL×九州大学 『ワカメの養殖を体験しよう!』

佐志小学校5年生の総合的な学習の時間に、「海洋教育」に関する学習として『ワカメの養殖（種付け）体験』を行います。

佐志小学校が実施しているこの取り組みに、今年度も日本航空（JAL）グループからは空港のグランドスタッフなどの社員が、九州大学からは環境問題の専門家が参加し、講話を通じて環境問題について学びます。

地域活性化をはじめ、豊かな地球を次世代へ引き継ぐため、「JAL」「九州大学」が、ワカメの持つ可能性に期待して参加するものです。

1 日 時

11月26日（火） 13:30～15:35

2 内容・場所

(1) 13:30～14:15 佐志小学校体育館

- ワカメについて学ぼう
- ブルーカーボンについて学ぼう
- JALのお仕事・SDGsの取り組みについて学ぼう

(2) 14:25～14:55 どんどん川（校舎と運動場の間の川）河口の岸壁

- ワカメの苗をロープに巻こう

(3) 15:00～15:35 佐志浜人工海浜

- 海岸をきれいにしよう（海岸清掃）

（JAL・九大との連携に関する問合せ先）

- 政策部 高等教育機関等連携・交流推進室
- 担当：古賀、徳田
- 電話：72-9115（内線1313）

（養殖体験学習に関する問合せ先）

- 佐志小学校
- 担当：石井・林田
- 電話：74-3445

Press Release

唐津市ブルーカーボンの取組み

～産学官連携による地元小学生とのワカメ収穫体験～

唐津市と九州大学、および日本航空株式会社（以下「JAL」）は、豊かで幸福な生活をおくることができる未来社会の実現に向けて、唐津市におけるブルーカーボン¹を活用した取り組みを進めています。



昨年の様子：九州大学(早瀬准教授)によるブルーカーボンの講話



JALのグランドスタッフと共に行ったワカメの種付け

ブルーカーボンを活用した最初の取り組みとして、海洋教育に力を入れている「佐志小学校」と地元漁業者の有志によって構成される「からふさ研究会」の参画のもと、令和4年度にワカメ養殖（種付け）体験（11月）およびワカメ養殖（収穫）体験（2月）を実施しました。令和5年度も体験を実施し、この取り組みを継続的なものとすることを目指しています。

今年度もワカメの種付け体験にあわせ、九州大学からはブルーカーボンに関する講話、JALからはSDGsの取り組みなどに関する講話を小学生に向けて行い、環境問題への学びを深めます。

近年、気候変動への対応やカーボンニュートラルの推進が世界的に注目されているなか、養殖体験を行うワカメは食用だけではなくブルーカーボンとして環境面での効果も期待されています。

当該海域のCO₂吸収源として育ったワカメの一部は、収穫せずにブルーカーボンとして海に残し、海中・海底に貯留させることで気候変動緩和対策につなげます。

この取り組みに関するJALの参加は、唐津市と包括連携協定を締結している九州大学が、JALと産学連携事業に取り組んでいることから実現しています。



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



JAPAN AIRLINES

¹ ブルーカーボン(以下「BC」)とは2009年に国連環境計画(UNEP)等により提唱された海洋の生物活動に伴い海洋生態系内に貯蓄される炭素のことであり、近年、地球温暖化の緩和策として着目されています。地球上の生物が吸収するCO₂のうち半分強は海洋が吸収し、さらに海洋によって吸収される炭素の半分以上がBC生態系(以下「BCE」)と呼ばれる浅海域で吸収されています。BCEとしてはマングローブ林、塩性湿地、海藻藻場が該当するが、国内ではアマモ場やガラモ場等の藻場が着目されており、特にアマモ場は国内における主要なBCEとして期待されています。



ブルーカーボン生態系によるCO₂吸収の仕組み(概念図)
出典：JBE資料